

# 「心靈」を結節点に、医学・宗教・思想・文学各界から多彩な人士が蝋集した稀有な機関紙

**株式会社人文書院 所蔵 「日本心靈」デジタルアーカイブ**

原本所蔵・編集：株式会社 人文書院

栗田 英彦（佛教大学）

（本誌の）解題（二）

太田 淳（建）

解題（一）

解題（三）

解題（四）

解題（五）

解題（六）

解題（七）

解題（八）

解題（九）

解題（十）

解題（十一）

解題（十二）

解題（十三）

解題（十四）

解題（十五）

解題（十六）

解題（十七）

解題（十八）

解題（十九）

解題（二十）

解題（二十一）

解題（二十二）

解題（二十三）

解題（二十四）

解題（二十五）

解題（二十六）

解題（二十七）

解題（二十八）

解題（二十九）

解題（三十）

解題（三十一）

解題（三十二）

解題（三十三）

解題（三十四）

解題（三十五）

解題（三十六）

解題（三十七）

解題（三十八）

解題（三十九）

解題（四十）

解題（四十一）

解題（四十二）

解題（四十三）

解題（四十四）

解題（四十五）

解題（四十六）

解題（四十七）

解題（四十八）

解題（四十九）

解題（五十）

解題（五十一）

解題（五十二）

解題（五十三）

解題（五十四）

解題（五十五）

解題（五十六）

解題（五十七）

解題（五十八）

解題（五十九）

解題（六十）

解題（六十一）

解題（六十二）

解題（六十三）

解題（六十四）

解題（六十五）

解題（六十六）

解題（六十七）

解題（六十八）

解題（六十九）

解題（七十）

解題（七十一）

解題（七十二）

解題（七十三）

解題（七十四）

解題（七十五）

解題（七十六）

解題（七十七）

解題（七十八）

解題（七十九）

解題（八十）

解題（八十一）

解題（八十二）

解題（八十三）

解題（八十四）

解題（八十五）

解題（八十六）

解題（八十七）

解題（八十八）

解題（八十九）

解題（九十）

解題（九十一）

解題（九十二）

解題（九十三）

解題（九十四）

解題（九十五）

解題（九十六）

解題（九十七）

解題（九十八）

解題（九十九）

解題（一百）

解題（一百零一）

解題（一百零二）

解題（一百零三）

解題（一百零四）

解題（一百零五）

解題（一百零六）

解題（一百零七）

解題（一百零八）

解題（一百零九）

解題（一百一〇）

解題（一百一一）

解題（一百一二）

解題（一百一三）

解題（一百一四）

解題（一百一五）

解題（一百一六）

解題（一百一七）

解題（一百一八）

解題（一百一九）

解題（一百二十）

解題（一百二十一）

解題（一百二十二）

解題（一百二十三）

解題（一百二十四）

解題（一百二十五）

解題（一百二十六）

解題（一百二十七）

解題（一百二十八）

解題（一百二十九）

解題（一百三十）

解題（一百三十ー）

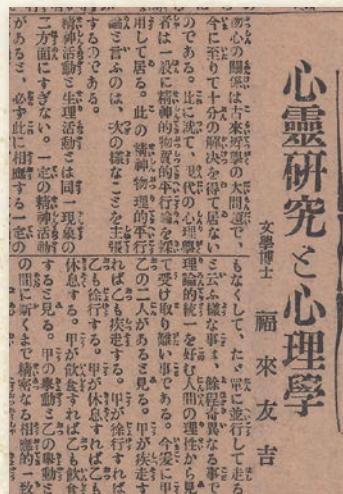
解題（一百三十ニ）

解題（一百

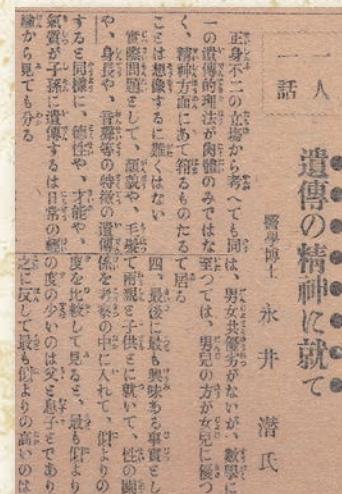
- ◆ 明治～大正期 最大規模の精神療法団体「日本心靈学会」の幻の機關紙
- ◆ 大正4年創刊号～昭和14年廃刊号まで 700号以上を一挙収録
- ◆ 医学・宗教・哲学・思想・文学各界から多彩な執筆陣
- ◆ 発行年月日、見出し、執筆者等で検索可能、2万件以上に及ぶ  
膨大な記事に自在にアクセス

## 精神医学・心理学/実験・治療報告

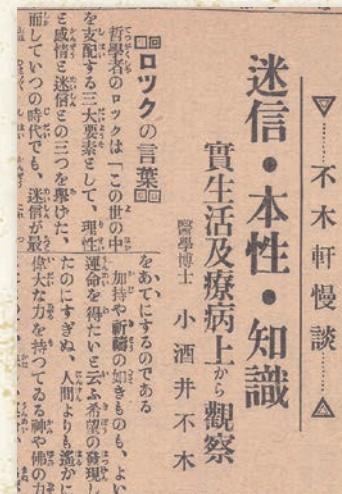
福来友吉 今村新吉 小酒井不木 戸田正三 森田正馬 吳秀三  
永井潜 小南又一郎 松本亦太郎 富士川游 林謹 仁科芳雄



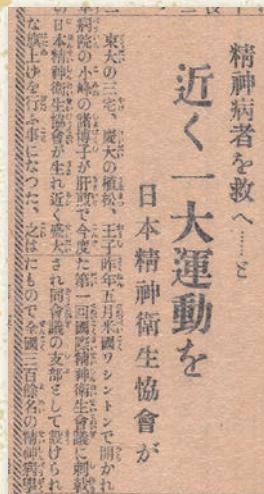
大正7年2月15日



大正14年5月10日



昭和3年8月1日



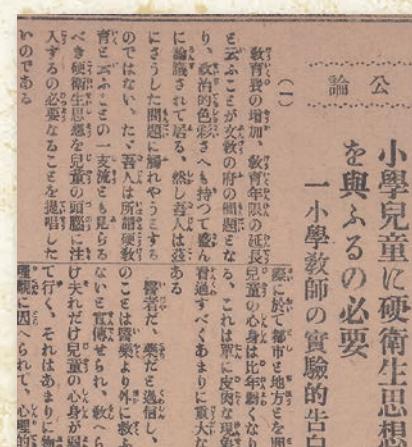
昭和6年6月1日



◆ ホーブ氏撮影の福来博士の肖像。其の後に現はれた  
所謂同窓會(参考参照)

昭和4年1月10日

## 教育



大正11年9月15日

## 新教育方針とは

物質以上を考慮せしむる教育へ



昭和5年11月1日



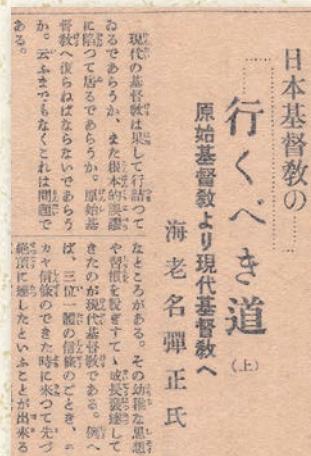
昭和7年1月1日



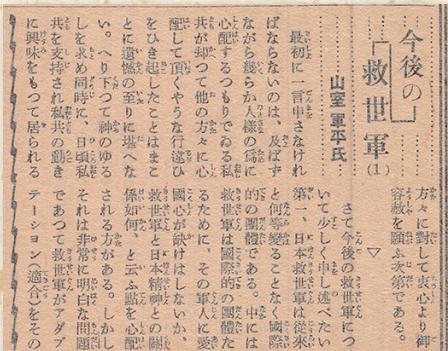
大正6年3月1日



昭和7年7月1日



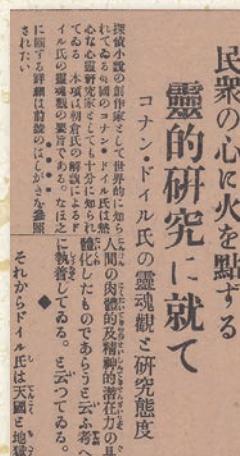
昭和11年3月20日



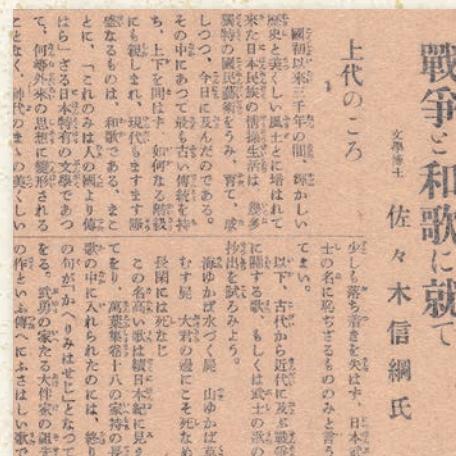
昭和11年5月20日

## 文学・ジャーナリズム

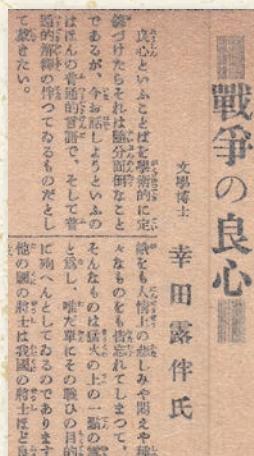
幸田露伴 佐々木信綱  
長谷川時雨 長谷川如是閑  
倉田百三 土田杏村



大正13年9月10日



昭和13年11月1日



昭和14年2月1日

## 生命と精神の時代を体感する

横浜国立大学教授 一柳 廣孝

大正時代は生命論がさまざまな領域で取り上げられ、身体と精神の関係性が問われた時代だった。アカデミズムにあってはベルグソンの哲学やヘッケルの生物学に注目が集まり、民間では精神の力にもとづく多様な治療法が実践された。こうした多様な文脈の交差するプラットホームのひとつが、日本心霊学会の機関紙「日本心霊」だった。同学会は独自の理論にもとづく精神療法（靈術）を実践する団体として活動したが、その規模は数ある靈術団体のなかでも群を抜く。また当時の靈術団体にあって、ほぼ唯一、定期刊行物を有していたことでも知られる。「日本心霊」からは、靈術家たちのエネルギーな活動と彼らの治療によって癒された患者の肉声が立ち上ってくる。そして同紙の価値は、靈術運動の可視化という次元にとどまらない。「日本心霊」の執筆陣としては、催眠心理学の第一人者であり、同学会に理論的な枠組みを提供した福来友吉、独自の生命論を唱

えた永井潜、自らの体験を踏まえた闘病の心得を説く小酒井不木などが代表格だが、他にも賀川豊彦、山室軍平、海老名彈正、矢内原忠雄といったキリスト者や、三木清、倉田百三、紀平正美、波多野精一、石原謙らが連載記事を寄せている。もともと日本心霊学会は浄土宗との結びつきが強く、全国各地の支部は浄土宗系の寺院に置かれていた。しかし「日本心霊」の紙面は、仏教の枠を軽々と超えていく。ここでは理論としての生命論と実践としての精神療法が反響し、結びついている。催眠術や靈術、心霊学のみならず、医学や生物学、心理学、さらには哲学、宗教、文学などの言説がひしめき合い、生命と精神をめぐる特異な言論の場を構築しているのだ。一方、のちに人文書院となる同学会出版部の歩みは、京都を拠点とする出版史の観点からもきわめて興味深い。「日本心霊」は、生命と精神の時代を体感することができる、多面的な宝石箱なのである。

# 「日本心靈」デジタルアーカイブ

原本所蔵・編集：株式会社 人文書院 解題：栗田 英彦（佛教大学）

¥180,000(税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター  
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは [kenkyushien@maruzen.co.jp](mailto:kenkyushien@maruzen.co.jp) まで>（お申し込みは学術機関に限ります）

明治後期から大正にかけて全国で数多の精神療法団体が出現し、一大ブームが巻き起こった。なかでも、明治41年に発足した「日本心靈学会」は、全国の寺院をネットワークに心靈治療（精神療法）を行う最大規模の靈術団体として知られる。同学会が発行した機関紙「日本心靈」は、国立国会図書館等にも一切所蔵がなく、幻の資料とされてきた。この度、同学会の後身にあたり、現在は出版社である株式会社 人文書院にて、ほぼ揃いの状態で発見された「日本心靈」（大正4年創刊～昭和14年廃刊、約700号）をデジタルアーカイブとして提供する。

「日本心靈」の記事は極めて多岐にわたる。映画「リング」のモデルともいわれる心理学者・福来友吉をはじめ、精神科医・森田正馬、社会運動家・賀川豊彦、哲学者・井上哲次郎、探偵小説作家・小酒井不木など、医学・宗教・思想・文学各界から多彩な執筆陣が名を連ねる。文芸欄や写真、外地を含む各地の会員からの治療報告や投稿も多数含まれ、明治期から始まる催眠術ブームや、靈術団体の思想や活動の実態に迫る、唯一無二の資料として注目される。

発行年月日、見出し、執筆者等での検索を可能とし、2万件以上に及ぶ膨大な記事に自在にアクセスできる。科学史、宗教学、思想史、民俗学、文学、出版文化史など、様々な分野で必見の新史料である。

病氣の網を切る心靈治療

心靈治療法を  
傳授公開す



好評  
発売中

## 社会文化史データベース

横断検索が可能です

性風俗稀少雑誌コレクション

価格 ¥400,000(税別)

原本所蔵：三橋順子（性社会・文化史研究者／明治大学非常勤講師）  
解題：三橋順子、石川巧（立教大学教授）

1950年代～70年代に刊行された稀少な大衆娯楽・性風俗雑誌450冊以上を収録。小説、エッセイ、ルポルタージュ、読者投稿欄など、1万件以上に及ぶ記事に自在にアクセス。雑誌名、発行年月日だけでなく、記事名、執筆者名、出版社名等での検索も可能。

**MARUZEN-YUSHODO 丸善雄松堂株式会社** 学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル TEL.03-6367-6025 FAX.03-6367-6188 e-mail [kenkyushien@maruzen.co.jp](mailto:kenkyushien@maruzen.co.jp)